

2018年度 決算説明会

－ 2018年度決算および2019年度計画 －

2019年4月25日

富士通フロンテック株式会社

1. 2018年度 通期決算概要

連結経営成績

【億円】

摘要	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
2018年度	1,023	26	27	16	65.28円
2017年度	967	39	38	24	100.50円
前年度比	+56	△13	△12	△8	
1月公表値	1,010	29	24	17	70.99円
1月公表比	+13	△3	+3	△1	

■ 1月公表値に対する増減理由

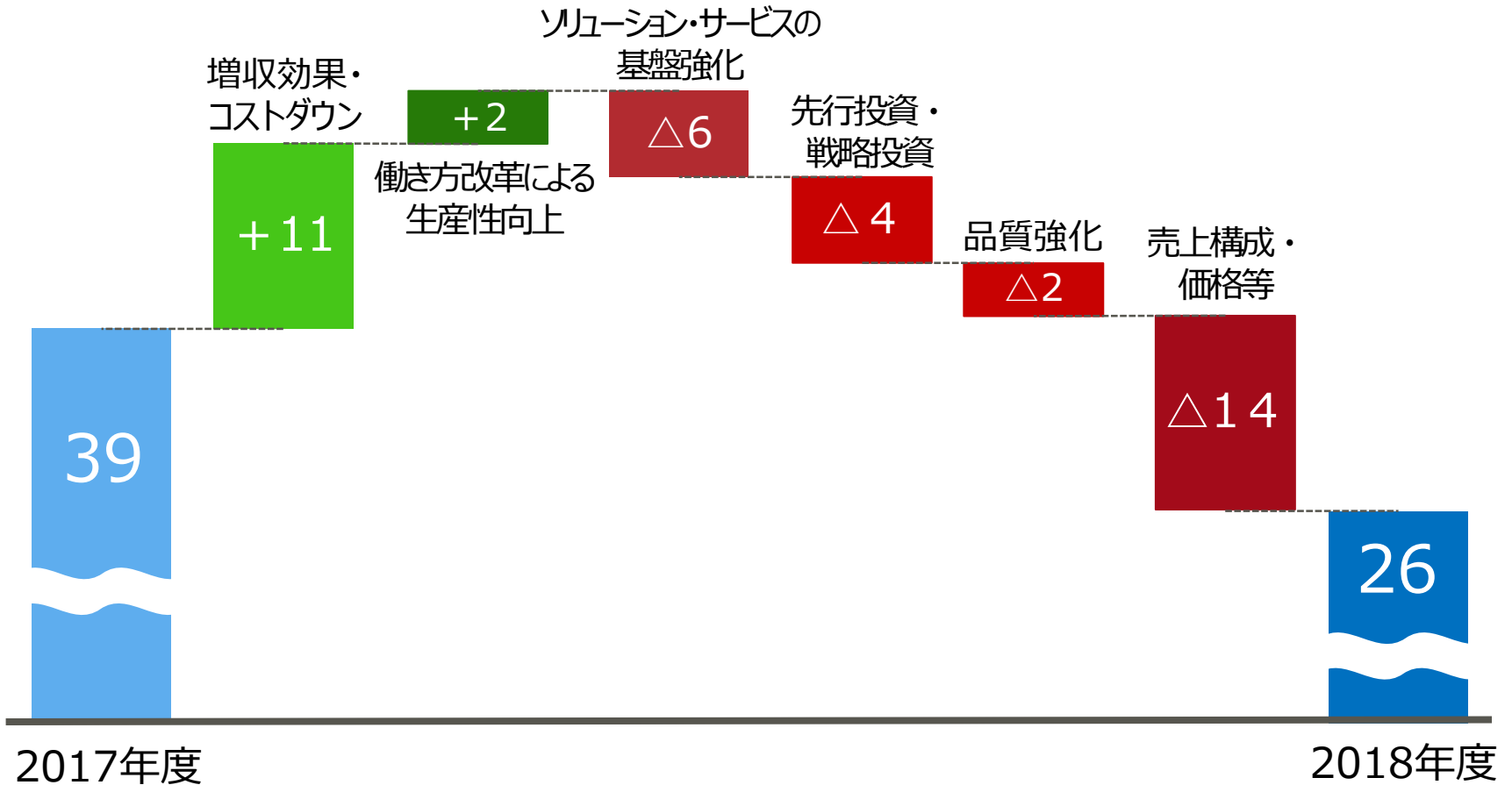
- 欧米向け大型/小型リサイクルユニットの増収
および価格競争への対応
- 海外向け手のひら静脈認証の商談延伸
- 円安基調による為替差益の計上 など

■ 期中平均為替レート (1USD=)

2018年度	111円
2017年度	111円

営業利益の主な増減要因（前年度比）

【億円】



地域別売上高

【億円】

摘要	2017年度	2018年度	増減額
国内	736	726	△10
海外 ()内は売上高比率	232 (23.9%)	297 (29.1%)	+65
米州	107	147	+40
欧州	76	97	+21
アジア	49	53	+4
(中国)	(29)	(21)	(△8)
計	967	1,023	+56

セグメント別売上高・営業利益

【億円】

摘要	2017年度		2018年度		増減額	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
グローバルプロダクト ビジネス	377	11	406	△4	+30	△15
サービスインテグレーション ビジネス	283	27	287	24	+4	△3
パブリックソリューション ビジネス	194	11	214	15	+20	+4
フロントソリューション ビジネス	112	4	114	5	+2	+1
その他ビジネス/全社費用 (戦略投資含む)	1	△15	1	△15	±0	±0
計	967	39	1,023	26	+56	△13

セグメント別売上高・営業利益（増減要因）

グローバルプロダクトビジネス（前年度比 売上高+30億円、営業利益△15億円）

- 欧米向け大型/小型リサイクルユニットの増加
- 流通向け中型ATMの展開開始による売上貢献
- メカトロ技術応用製品の開発・リリース
- 営業店端末の端境期による減少
- メカコンポーネントビジネスにおける価格競争
- 中国向けメカコンポーネントの減少

売上高[億円]



2017年度 2018年度

営業利益[億円]



2017年度 2018年度

サービスインテグレーションビジネス（前年度比 売上高+4億円、営業利益△3億円）

- 国内現金管理運用サービスの本格展開開始
- 米国RFIDソリューションビジネスの伸長
- LCMサービスの売上増加
- 売上構成の変化による減少
- サービス新商品の開発費およびソリューション・サービス基盤強化費用の増加
- SIビジネス商談の一部延伸

売上高[億円]



2017年度 2018年度

営業利益[億円]



2017年度 2018年度

セグメント別売上高・営業利益（増減要因）

パブリックソリューションビジネス（前年度比 売上高+20億円、営業利益+4億円）

- ▶ トータリゼータ端末の新機種およびtoto端末の展開による増加
- ▶ 業界初の手のひら静脈認証装置を採用したキャッシュレス端末の展開
- ▶ 公営競技向け包括運用サービスの伸長

売上高[億円]



営業利益[億円]



フロントソリューションビジネス（前年度比 売上高+2億円、営業利益+1億円）

- ▶ マルチ決済ソリューション/サービスのラインナップ拡充と本格展開
- ▶ 海外RFIDの伸長
- ▶ 手のひら静脈センサーのラインナップ強化と組み込みビジネス開始

売上高[億円]



営業利益[億円]



■ 連結財政状態

【億円】

摘要	総資産	負債	純資産	自己資本比率
2018年度	737	261	476	63.8%
2017年度	713	252	461	63.9%
増減額	+24	+9	+15	

■ 連結キャッシュ・フロー

【億円】

摘要	営業C/F (A)	投資C/F (B)	フリーC/F (A+B)	財務C/F (C)	C/F (A+B+C)	現金及び 現金同等物の 期末残高
2018年度	1	△34	△33	△16	△49	154
2017年度	81	△48	33	△17	16	203
増減額	△81	+15	△66	+1	△65	△48

2. 2019年度計画

基本方針と中期業績目標

■ 基本方針

当社の強みであるテクノロジーとプロダクトをフロント領域でデジタル革新をもたらすコアと位置付け、省力化・自動化、安全・安心といった「コト」からの発想で事業を強化・成長させる。

お客様フロントの変革への対応

省力化・自動化への貢献

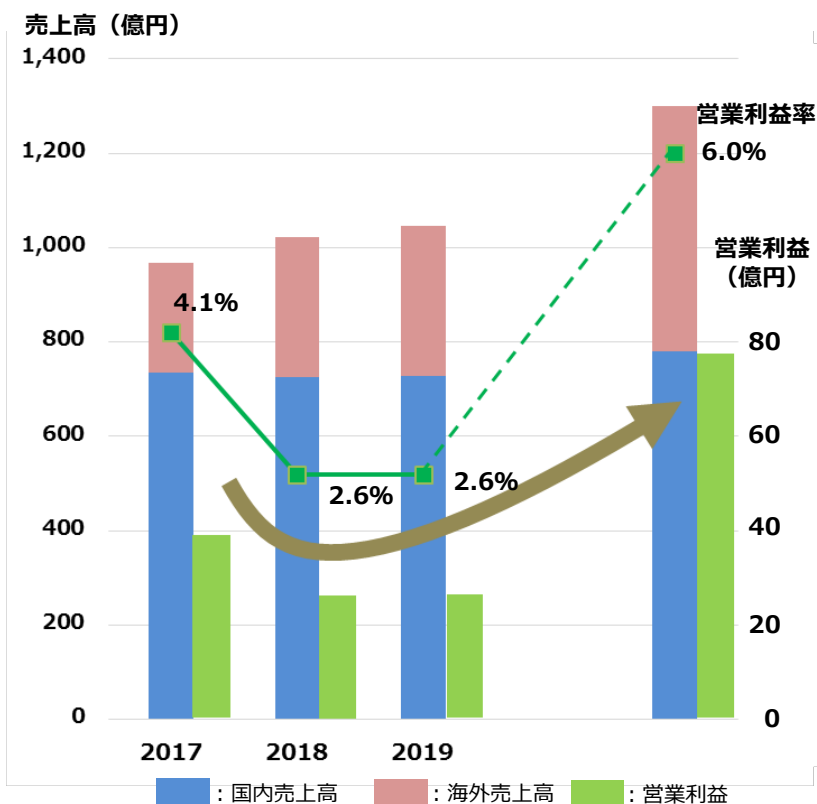
安全・安心の実現



ビジネス基盤の強化

■ 中期業績目標

	2018年度実績	中期事業目標
連結売上高	1,023億円	1,300億円
営業利益	26億円	78億円
営業利益率	2.6%	6.0%
		(ソリューション・サービス 10%以上)



■ 7つの重点テーマ

- ① 保有するプロダクト・ソリューションの知見・技術・実績を活かした新規分野への領域拡大
- ② 金融顧客ニーズの変化を先取りした新たな提案と既存領域でのビジネス拡大
- ③ サービスビジネスの顧客数・領域（業種等）拡大と新たなビジネスモデルの創出
- ④ 流通・公共分野の市場変化と新たな顧客ニーズを先取りしたソリューション・サービス起点でのビジネス拡大
- ⑤ RFID、手のひら静脈認証などユニーク技術をコアとした製品ビジネス拡大とトータルソリューションビジネス化
- ⑥ 海外ビジネスモデルの変革と体制強化による海外売上拡大
- ⑦ グローバル品質・コスト競争力などのビジネス基盤強化

- 国内金融機関の経営環境悪化継続、投資の遅れと見直し
- ATM世界市場の成長継続（リサイクル化）と価格競争
- 金融・流通市場での世界的な自動化・省力化の進展
- キャッシュレス化の流れ（レス・キャッシュ）
- 国内・海外での流通店舗現金管理ソリューションの普及
- 国内：決済手段の多様化、ICクレジットカード対応義務化
- 安心・安全を求めるニーズの高まり
- 中国の国産化政策と価格競争
- 新券発行の影響

グローバルプロダクトビジネスの
売上拡大とコストダウン

ソリューション・サービスビジネスの
成長と利益の確保

- 海外パートナーとの連携強化によるリサイクルユニットの展開拡大
- 北米流通店舗の自動化および現金管理のデジタル化ビジネス拡大
- メカトロ技術を活用した応用製品の拡販と、製品バリエーション拡大による新規分野への展開
- 中・小型、省スペースATMの提案と展開
- トータリゼータ端末の新機種展開および地方公営競技への拡大
- 公営競技向けキャッシュレス端末およびサービスビジネスの拡大

プロダクト関連の共通化による業種・業態を超えた対応力の強化と
「コスト構造改革」による利益体質化

- プロダクト・製品コスト削減に向けた取り組み強化
- 開発・製造・オペレーション体制の最適化
- 不採算事業の見直し

■ 新規ビジネスによる成長

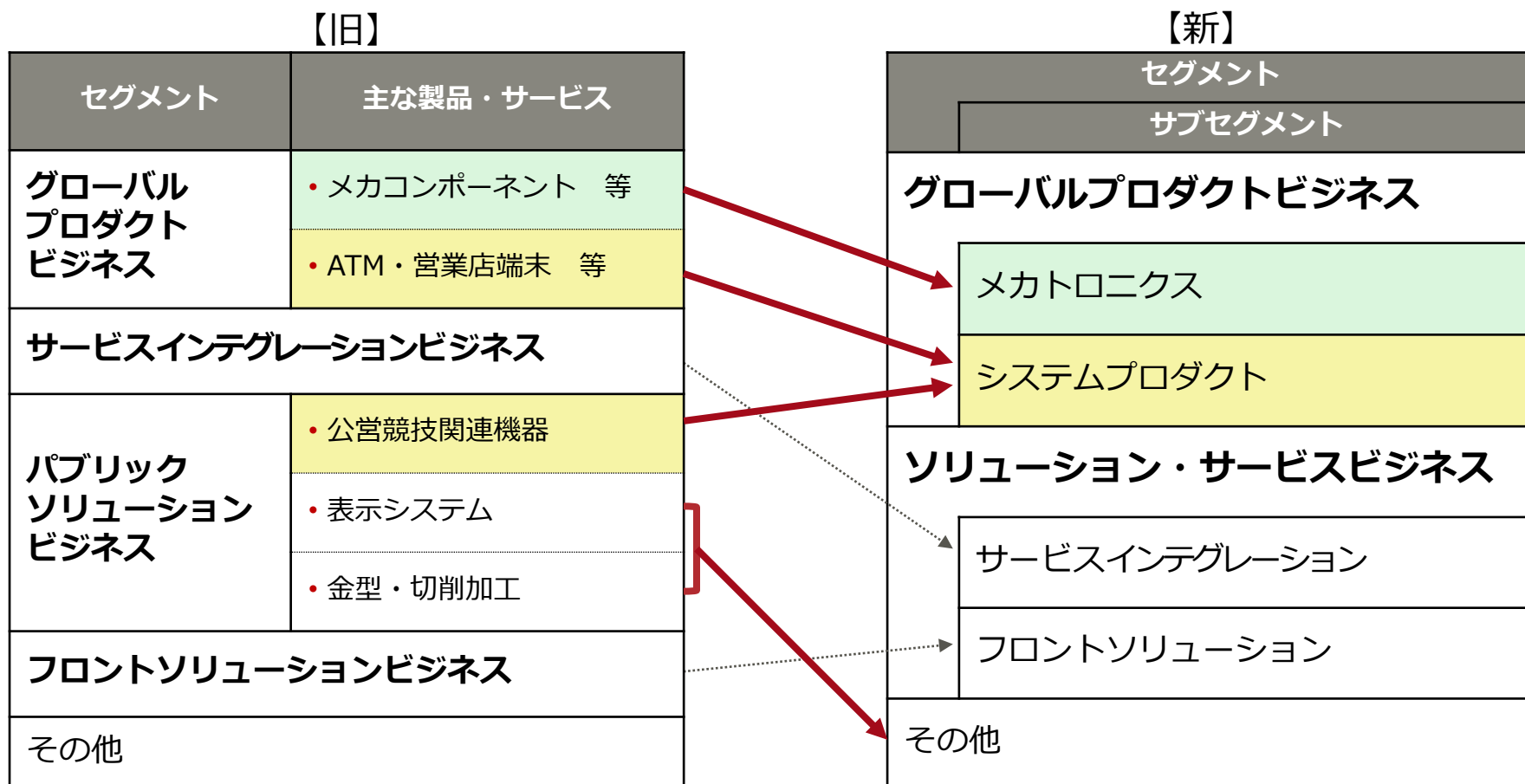
- 次世代金融ソリューションビジネスの拡大
(クイックカウンタ、セルフ店舗、次世代ATMなど)
- ユニーク技術をコアとしたソリューションビジネス創出
(キーワード認識汎用化、手のひら静脈認証など)
- RFID/ビーコンを活用したIoTソリューションビジネスの拡大
- 金融から産業・流通・公共・医療などへのSIビジネス領域拡大

■ 既存ビジネスの利益確保

- 国内現金管理運用サービスビジネスの拡大
- ヘルプデスク・保守・リペアを組み合わせたLCMサービスの拡大
- マルチ決済端末およびソリューションビジネスの拡大
(モバイル型面前決済端末、タクシー決済端末など)

ビジネス推進体制の強化（2019年4月1日付）

- 新セグメントを4区分から2区分へ変更
- プロダクト関連の共通化によるコストダウン、ソリューション・サービス起点での一層の競争力向上を図る



連結業績予想

【億円】

摘要	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
2019年度計画	1,040	27	22	16	66.83円
2018年度実績	1,023	26	27	16	65.28円
増減額	+17	+1	△5	±0	

■ 海外売上高 【億円】 () 内は売上高比率

2019年度計画	315 (30.3%)
2018年度実績	297 (29.1%)

■ 期中平均為替レート (1USD=)

2019年度想定	105円
2018年度	111円

地域別売上高予想

【億円】

摘要	2018年度	2019年度	増減額
国内	726	726	±0
海外 ()内は売上高比率	297 (29.1%)	315 (30.3%)	+18
米州	147	155	+8
欧州	97	98	+1
アジア	53	62	+9
(中国)	(21)	(26)	(+5)
計	1,023	1,040	+17

セグメント別売上高・営業利益予想

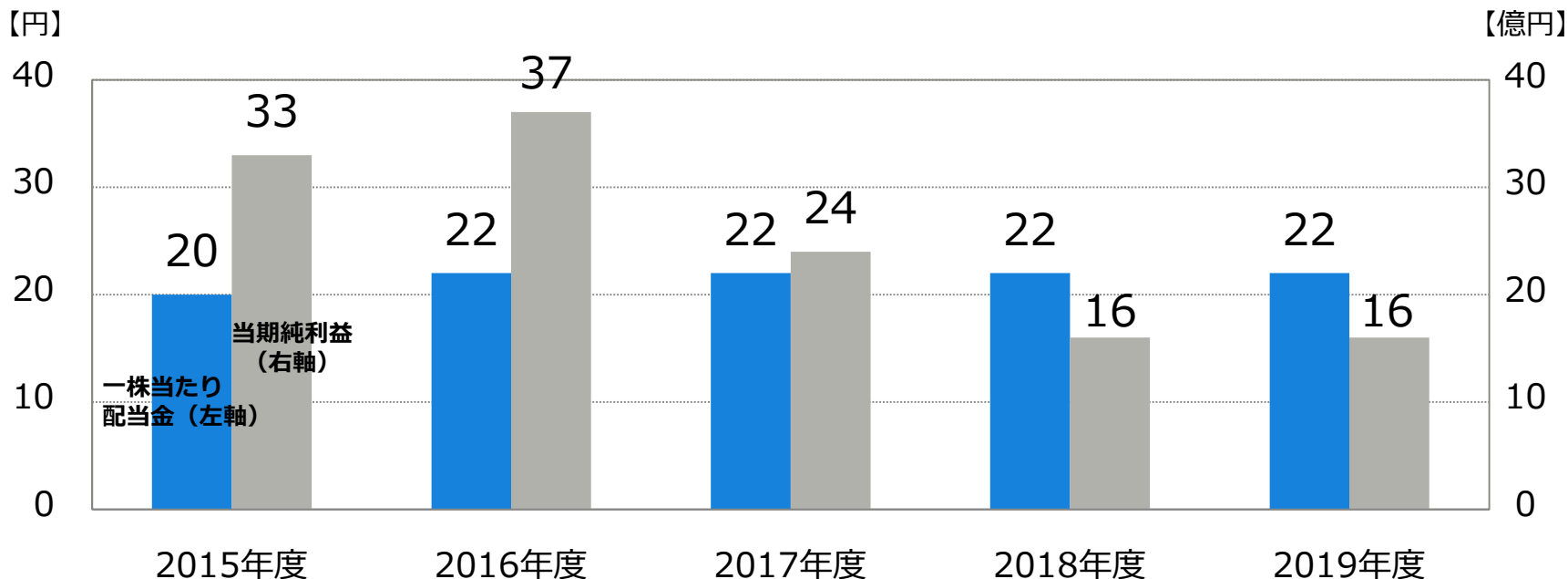
【億円】

摘要	2018年度		2019年度		増減額	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
グローバルプロダクト ビジネス	601		580		△21	
メカトロニクス	297	15	290	12	△7	△3
システムプロダクト	305		290		△14	
ソリューション・サービス ビジネス	402		433		+32	
サービス インテグレーション	287	30	300	33	+12	+3
フロントソリューション	114		133		+19	
その他ビジネス/全社費用 (戦略投資含む)	20	△18	27	△18	+7	+1
計	1,023	26	1,040	27	+17	+1

配当方針： 安定配当を基本に、各事業年度の利益状況と将来の事業展開を考慮し決定

摘要	中間	期末	年間
2019年度	1.1円予定	1.1円予定	2.2円予定
2018年度	1.1円	1.1円予定	2.2円予定

■過去の配当額推移

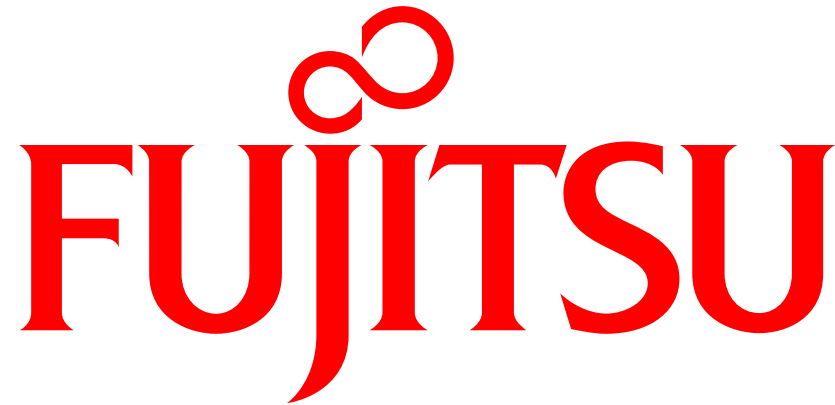


<見通しに関する注意事項>

- 本資料には、富士通フロンテックが現時点で把握可能な情報から判断した想定などにもとづく将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれています。
- また、多様なリスクや不確実性（経済動向、関連業界における激しい競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度などがあります）を含んでおります。そのため、実際の業績は当社の見込みとは異なる可能性がありますので、ご承知置きください。

<商標について>

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。



shaping tomorrow with you